



校長室だより

第 8 号

令和3年5月28日(金)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

今週の沼部小 その1 J A Z Z を聴いたよ

先週はいろいろなことがありました。まとめて紹介します。今回は両面になってしまいます。どうぞ御容赦願います。

26日(水)には、大崎市教育委員会主催、音楽が聞こえる都市づくりの一環として、令和3年度音楽アウトリーチ(ジャズ部門)を、本校体育館を会場に開催しました。本当は全校児童に聴かせたかったのですが、コロナ禍で、全校児童が体育館に集まるとどうしても密の状態になってしまいます。そのため、4年生以上に限定して音楽鑑賞を行いました。

出演してくださったのは、安田智彦グループです。平成元年に結成し、仙台を中心に、東北各地で幅広い活動をなさっているグループです。サクソフォンの^{やすだともひこ}安田智彦さん、ピアノの^{これかわ ゆみこ}是川由美子さん、ベースの^{あおきふとし}青木大志さん、ドラムの^{くろせみちとも}黒瀬理知さんの4名で演奏してくれました。子供たちが好きな鬼滅の刃の主題歌「紅蓮華」や「ルパン三世のテーマ」などを演奏してくれました。途中で「かえるのうた」のリズムを変えた演奏もありました。子供たちは拍手で演奏に加わりました。校歌も演奏してくださったのですが、ジャズ風にアレンジした校歌もすてきだなと思いました。毎朝校内放送で、録音による校歌を聴いていますが、コロナ禍で私はまだ、子供たちの生の声での校歌を聴いていないなと思ってしまいました。

リーダーの安田さんが子供たちに、「音楽で生計を立てていくためにはどうすればいいと思う?」という質問に、「たくさん練習する」などの声が聞かれました。その中で、5年生の柳澤龍雅さんが「仲間をつくる」と発言してくれました。なかなかいい発言だと感心しました。音楽で生計を立てるために大切なことは、「間違えないようにたくさん練習することも必要だが、言葉と同じように気持ちを届けることが大事なんだよ。」と教えていただきました。子供たちの心に響いたお話でした。安田さんが作曲した「木漏れ日」という曲も演奏してくれました。安田グループのCDをいただきましたので、昼の放送等で放送委員会さんに流してもらいたいと思います。

最後は「コナンのテーマ」でした。子供たちからアンコールが出て、「勇気100%」で終了となりました。最後に代表の子供たちが、すてきな感想を発表してくれました。

コロナ禍で、生の演奏を聴くことが少なくなっていますが、このような機会を得たことは、子供たちにとってとてもいい経験になったと思います。私自身とても楽しみました。市教委の担当の方、安田グループのメンバーに感謝しましょう。



その2 スーパームーンの皆既月食

沼部小ということではないのですが、26日の夜には3年ぶりとなる皆既月食が見られるという天体ショーがありました。しかも、月が地球に最も近づくスーパームーンでの皆既月食でした。少し寒かったのですが、天気も良く、月食の様子を観察することができました。皆さんは、見たでしょうか。私も自宅で観察していました。午後7時半ごろに下の方が欠けた状態で月が見え、午後8時過ぎに皆既月食となりました。右の写真は私のスマホで撮ったものです。テレビや新聞で見る月食と比べると、かなり不鮮明ですが、少しは分かるかなと思います。たまにはテレビを消して、月を観察するのもいいもんだなと思いました。



次に日本で見られる皆既月食は2022年11月8日、スーパームーンとして皆既月食が見られるのは、2033年10月8日だそうです。楽しみです。

その3 5年生の田植え

27日(木)1・2校時に体育館わきの田んぼで5年生が田植え(手植え)を体験しました。水田を地区の佐藤盛様より借用し、水の管理等を沼部長寿会の皆さまに御支援いただいて、5年生が総合的な学習で栽培するものです。

はじめの会で、鈴木美海さんが児童代表の言葉を言いました。長寿会の方より、田植えの仕方について説明をいただき、いよいよ田んぼにINです。何人かは田植えの経験をしたことがあるようですが、大体の子供たちは初めの経験でした。素足で恐る恐る田んぼに入っていきます。最初に聞かれるのは、思っていた通り、「うー」「うわー」「きゃー」などの悲鳴でした。田んぼには植える目印が付けられてあるので、線が交差したところを目指して、教えられた通り、4~5本ずつ指が隠れるくらいに植え付けていきます。最初はぎこちなかった子供たちも、慣れてくるにしたがい、手際よく植え付けられるようになりました。



慣れてくると、田んぼの中での転倒者も出てきます。小学校の田植えではお決まりの光景です。それがまた楽しいですね。私も一緒に田んぼに入り、田植えをしました。子供たちと一緒に田植えは本当に楽しい。すてきな時間を過ごすことができました。

借用している田んぼでは機械で植えると10分くらいで田植えは終わるでしょう。手で植えることの大変さを子供たちは感じてくれたと思います。「米という感じを分解すると八十八という字になる。ご飯として食べるまで多くの手間が掛かっている。その手間に感謝して食べるから『いただきます』なんだ。何気なく私たちはいろんなものを食べているが、そこにはいろんな人の手が掛かって食卓に届いている。この田植えを機会に食について考えてほしい。」ということをお子たちには話しました。

5年生には、機会あるごとに自分たちが植えた稲を観察してほしいと思います。そして、感謝の気持ちを忘れずに秋の稲刈りを迎えてほしいと思います。当日、お越しいただいた保護者の皆さま、御協力をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで充実した活動となりました。

